

シンポジウム「コンクリート連続体の構造デザインの可能性」

鉄筋コンクリート造による建築物は、通常、柱や梁の線材と耐震壁やスラブ等の面材より構成されており、室内側に柱型や梁型が突出したり、外周部の梁により開口部の大きさが制限されている。一方、室内側に柱型や梁型の出ない構造形式として壁式鉄筋コンクリート造や壁式ラーメン鉄筋コンクリート造があるが、壁量や壁柱率・壁率ならびに壁梁や梁せい等の構造規定により、空間デザインの観点からは自ずと限界があるといえる。本シンポジウムでは、耐久性・耐震性・空間可変性ならびに施工性に優れた RC 造の構造形式のひとつである鉛直の面材（耐力壁や扁平な柱）と水平の面材（スラブや床梁）から構成される構造形式について、実施例を踏まえ新たな空間創出のための構造デザインの可能性と構造設計上の課題について議論する。

主催 構造委員会 シェル・空間構造運営委員会 連続体構造小委員会／壁式構造運営委員会

日時 2011年11月1日（火）13：00～17：00

会場 建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

プログラム

司会：井上芳生（UR リンケージ）

副司会：西谷 章（早稲田大学）

記録：猪田大介（TIS&PARTNERS）

①主旨説明「開放的な RC 造を目指して」／今川憲英（TIS&PARTNERS／東京電機大学）

構造設計

②厚肉床壁構造の誕生とその可能性／今川憲英（前掲）

③壁と床版が創る多様な空間／金田勝徳（構造計画プラス・ワン／日本大学）

④構造壁とスラブのモデル化と配筋設計／下久保 亘（TIS&PARTNERS）

⑤構造壁とスラブ接合部の数値評価／原 隆（徳山高等専門学校）

構造技術

⑥PCa 厚肉床壁構造の開発／平松道明（大成ユーレック）

⑦RC 壁床構造における構造壁・床接合部の検討／井上芳生（前掲）

意匠設計

⑧厚肉床壁構造を使った新しい集合住宅の挑戦／元倉真琴（スタジオ建築計画／東京藝術大学）

⑨コンクリート連続体の可能性“方向性を生かした敷地特性への適応”／

竹山 聖（設計組織アモルフ／京都大学）

⑩討論（50分）

⑪まとめ／稲井栄一（山口大学）

定員 230名（申込先着順）

参加費（資料代含む）

会員 3,000円、会員外 5,000円、学生 2,000円

申込方法：E-mail またはFax にて、催物名称、氏名、勤務先・所属、同電話番号、E-mailアドレスを明記のうえ、申し込んでください。定員に達した場合は、お断りの方のみご連絡します。

申込先：（社）日本建築学会 事務局 研究事業グループ 榎本

E-mail: enomoto@aij.or.jp Fax:03-3456-2058